

私のことを好きになれた瞬間

智辯学園中学校 三年 平田 歩巳

私は私が嫌いです。小学五年生ぐらいの時からずっと嫌いです。私がどう頑張っても好きにはなれませんでした。でも、二回自分のことが好きになれた時がありました。今、その時のことを思い出しても少し自分のことが好きになることができます。

一回目は、二年前私が学校で所属しているバレーボール部で現在高校二年生の引退試合の時の話です。私はその試合の時にユニフォームを着て、試合を外から応援していました。その時、友達と先輩方全員は試合に出場していて、私だけ試合に出場できませんでした。ウォーミングアップも私だけ参加できませんでした。私が未熟だったことは分かっていたのですが、それでも悔しかったですし、辛かったです。

でも、そんな気持ちを汲み取ってくれて私に優しい言葉をかけてくれた先生がいました。その先生は、私に「いつもあなたが頑張っているところを私は知っている。そして、あなたが周りを見てサポートしているところを皆分かっている。いつも誰よりも早く動いてくれてありがとう。」と言ってくれました。私はその言葉を聞いて、試合に出場しなくても、他の人ができていることができなくても、それでも私ができることを精一杯しているとそれは他の人にきちんと見てもらえている、評価されている、ということが分かり、安心感など色々な気持ちが募り、泣きそうになりました。それと同時に、私でもできることがあるのだと思えるようになりました。全く自信がなかった私に少し自信がつけました。

二回目は、私が英会話の時間に自己紹介をした時のことです。その時に絶対自分の嫌いなものを三つ言ってほしいと言われました。実際私は、なすやレタス、パプリカなど嫌いなものがたくさんあります。でも私は英語でどう言うのか分からなくて「I don't like studying, dancing and me.」と言いました。すると、先生は「Why?」とおっしゃいました。私は私の全てが嫌いでしたし、どう返答しようか迷いました。そして「何も出来ない自分が嫌いです。」と返しました。

すると先生から「あなた今、英語話せていたよ。何もできないことはないんだよ。あなたは一人しかいない。あなた以外の人はあなたになることはできない。あなたの代わりは誰一人いない。You are a perfect human.」という言葉をかけてもらいました。その言葉を聞くまでは誰だって努力をそこそこして、嫌いな物から離れて、好きなことをしていたら私の代わりになれますし、私がいなくても普通に世界は回って、いつも通りの日々を過ごすことができると思っていました。でもそんなことはない、どう頑張っても私は一人しかいないということが分かりました。少し嬉しくなり、気持ちが軽くなりました。先生がかけてくれた言葉には、あなたはあなたのままでいい、そのままのあなたも魅力があるという意味が込められている気がしました。

私は二人の先生に自分のことを好きにさせてもらいました。今、私自身のことは嫌いですが、前より自分のことが好きになることができたと思っています。

だからこそ自分のことを嫌いと思っている人がいるならばその人に伝えたい。「あなたはあなたにしかない。でもそんなあなたを好きでいてくれる人、助けてくれる人、一緒にいたいと思ってくれる人がいることを忘れないでほしい。あなたはとても素敵な人で、私はどんなあなたでも良いところを見つけて好きになるよ。」